

北関東救急看護研究会

プレホスピタルで代理意思決定をする、 家族との関わりから考える 倫理的配慮

 獨協医科大学病院 看護部
救命救急センター病棟
救急看護認定看護師 横地 瑞

獨協医科大学病院

- 栃木県壬生町
 - 診療科: 26科
 - 入院病床数: 1167床
- <看護部の紹介>
- 看護職員数: 1166名(有資格者1080名)平成26年4月現在
 - 7:1看護体制

看護部の理念

看護倫理の徹底
高度で良質な看護の提供
看護の専門性の追求
地域の特性に合わせた継続看護の充実
信頼される看護職員の育成

獨協医科大学病院 救命救急センター病棟の紹介

- 2002年4月救命救急センター認可
- 2005年20床に増設

- 病床数20床
- 初療室3床
- 看護師34名

救命救急センター病棟 看護師の役割

- 救命救急病棟での看護実践
- 初療室での救急車対応
- ドクターヘリでのプレホスピタルの活動

栃木県ドクターヘリ

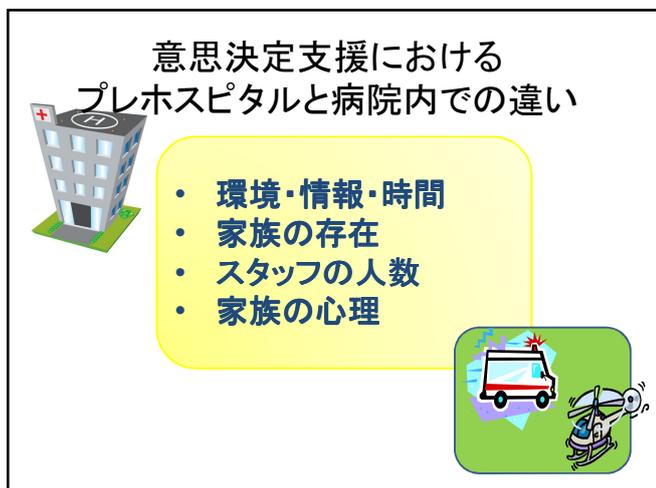
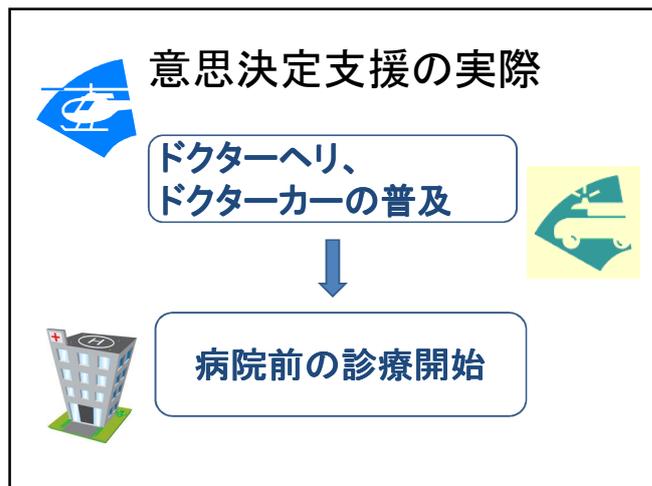
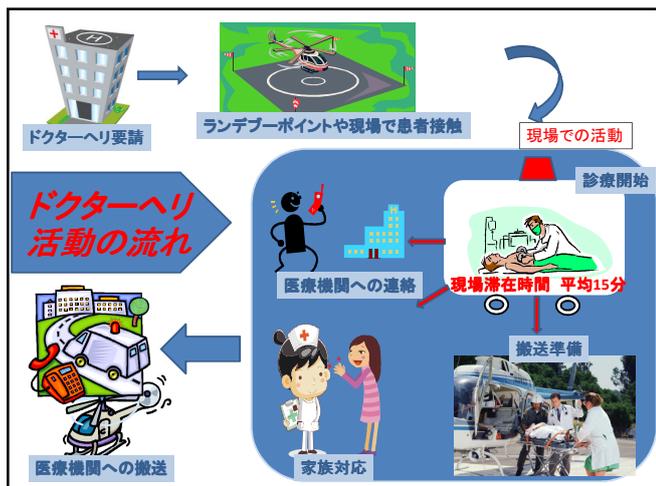
平成22年1月より運航開始



- 出動実績
要請 830件、出動 719件 (平成25年度)
- フライトスタッフ
医師2名、看護師1名、操縦士、整備士
- 平成23年7月より群馬県、茨城県、栃木県の3県による広域連携の実施

栃木県ドクターヘリの出動基準

- 生命の危機が切迫しているか、その可能性が疑われるとき
- 重症患者であって搬送に長時間を要する可能性があるとき
- 特殊な救急疾患(多発外傷など)で搬送時間の短縮が望ましいとき
- 救急現場で緊急診断処置に医師を必要とするとき



事例1

- 意識障害、呼びかけに反応なし。
- 既往：心筋梗塞、消化器系の疾患
- 同居の息子が救急車に同乗
- 瞳孔散大、対光反射なし
- 意識障害の程度から、医師が気管挿管の必要性について同居の息子に説明
→気管挿管の実施
- かかりつけの病院へ搬送

事例1：看護師の対応

- 診察を行うことを説明
- 環境に配慮
- 連絡先確認、搬送先病院の案内
- 治療後の面会と患者搬送の準備
- 搬送先病院へ患者状況、家族について申し送り

事例1：まとめ

- 患者の状態から気管挿管は適切な処置
→善行原則？無危害原則
- 気管挿管に関して、家族への説明は十分だったか？
自立尊重原則？パターンリズム？
- 診断がつかない状況
→説明内容に限界

事例2

- 意識障害、ショック
- 自宅で昏睡、補助換気施行、頸動脈触知微弱
- 急変時は救急車を要請するようにかかりつけ医に指導を受けていたため、救急要請となったことを救急隊より聴取。
- 動脈触知なし、CPR開始 →家族が気管挿管は希望しないとの情報で医師が確認のため家族(娘)のもとへ
- 家族から蘇生は希望しない意向を確認
- 搬送のため、ラリングルチューブ挿入の承諾をうけ留置
- 人工蘇生システム装着し搬送

看護師の対応

- 医師の得た情報をスタッフ間で共有
- 必要な処置の実施
- 速やかな搬送
- 環境に配慮しながら、家族へ搬送先の確認と連絡先の聴取,面会
- 家族へ治療方針の再確認、搬送先へ意向を申し送ることを説明
- 搬送先へ申し送り、家族の意向を伝えた。

事例2まとめ

- 家族の意思決定を尊重した診療の実施
- これまでの経過から、蘇生の可能性の判断は？
→善行原則？無危害の原則？
- 患者の意向は未確認
- 家族の、患者の体を傷つけないという思いの尊重
- ドクターヘリの利用は？
→公正・正義の原則

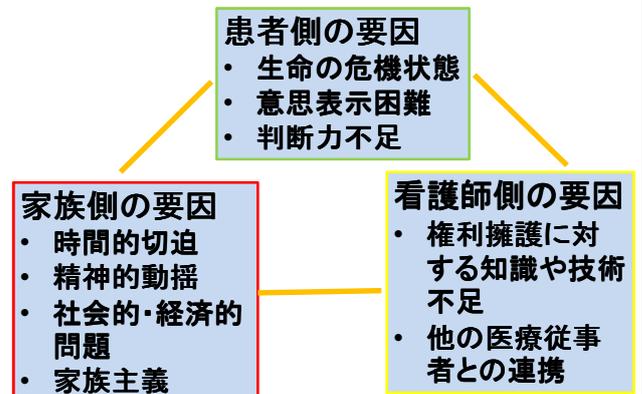
代理意思決定への倫理的配慮

- 時間の制約、限られた情報、限られた人員
- 現場では診断がつかない
- 説明する場所が公共の場である
- 家族は心理的危機状況にある
- 記録の充実、搬送先への連携

課題

- 情報収集のありかた
- 意思決定の環境
- 短時間での意思決定
- 医療者のジレンマ
- 事例の検証

倫理的ジレンマの発生要因



日本クリティカルケア看護学会監修、看護におけるクリティカルケア場面の問題解決ガイド、2013、三輪書店より引用

代理意思決定への倫理的配慮

- 時間の制約、限られた情報、限られた人員
→様々な職種との連携、時間の抽出
- 現場では診断がつかない
→善行原則、無危害原則

代理意思決定への倫理的配慮

- 説明する場所が公共の場である
→場所の配慮、プライバシーの保護
- 家族は心理的危機状況にある
→家族を支えるキーパーソンの確認
- 記録の充実、搬送先への連携
→看護の継続、忠誠の原則

課題

- 情報収集のありかた
- 意思決定の環境
- 短時間での意思決定
- 医療者のジレンマ
- 事例の検証



ご清聴ありがとうございました。

引用・参考文献

1. 日本クリティカルケア看護学会監修:看護におけるクリティカルケア場面の問題解決ガイド、2013、三輪書店
2. 宮脇美保子著、身近な事例で学ぶ看護倫理、2008、中央法規
3. サラT.フライ メガン-ジェーン・ジョンストン著、看護実践の倫理第3版倫理的意意思決定のためのガイド、2010、日本看護協会出版会
4. 一般社団法人日本救急看護学会 ホームページ
<http://jaen.umin.ac.jp>
5. 公益社団法人日本看護協会ホームページ
<http://www.nurse.or.jp>